

令和2年度教育事業 「教員免許状更新講習」 実施報告

- 1 趣 旨 体験活動の意義について理解するとともに、学校教育における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家
- 3 日 時 令和2年8月8日（土）、9日（日）、10日（月・祝）9：00～16：00
- 4 場 所 国立淡路青少年交流の家
- 5 対 象 教員免許状更新講習対象者
- 6 参加者 22名

7 内容等

<8月8日（土）>

教育現場で活かす体験活動①「子どもたちがわくわくする体験活動」

講師：大阪国際大学 教授 高見 彰 氏

昨年度に引き続き高見教授に講師をお願いした。受講者が実際にプログラムを体験することで、レクリエーションのポイントや注意点を学ぶことができた。マスク、手袋の着用や定期的な換気・消毒などのコロナ対策も行い、学校現場で学級づくり、仲間づくりなどに活用できる内容であった。



<8月9日（日）>

教育現場で活かす体験活動②「体験活動の実際」

講師：国立淡路青少年交流の家 次長 梅津 孝一
企画指導専門職 野原 宏太

主体性や社会性、環境問題や自然の多様性などについて学ぶことをねらいとし、カッター研修及び環境教育プログラムの体験活動を実施した。この実習を通して安全管理や活動のねらいを踏まえ、より教育効果を高めるためにはどうすればよいかについて考えることができた。



<8月10日(月・祝)>

教育現場で活かす体験活動③「教育の現状と課題について」

「学校教育における体験活動の意義」

講師：国立淡路青少年交流の家 所長 大本 晋也
公益財団法人兵庫県人権啓発協会事務局
次長兼啓発・研究部長 安東 靖貴 氏

教育の現状と課題について、グループワークを通して考えを深めることができた。また学校教育における体験活動の意義について学ぶことができた。校種や地域、経験年数や年齢を越え、お互いの現状を広く共有し合い、子どもたちにどんな力をつけるべきかを考えることができた。



8 参加者の声

- 次々と楽しいプログラムのシャワーを浴びて充実した一日でした。
- 体験型だったので、楽しみながら学べました。
- 自然体験を通して、学ぶことは大変有意義であり、良い体験でした。
- コロナ禍の中で、授業で使えるような体験活動を学べてよかった。

9 成果

事後アンケートから、「講座内容」「知識等の習得」「運営面」いずれについても、「よい」「だいたいよい」を合わせると、100%の評価を受講者から得ることができた。

体験型の講習会であったこと、すぐに学校現場で活用できる内容が含まれていたこと、それを支える学びの場が設定されていたこと等が好評の一因であったと考えられる。また、幼稚園教員から高等学校教員までと校種が幅広く、それぞれの現場の状況や課題を共有できたことも良かったようである。更に、新型コロナウイルス感染症の影響により中止やリモートに切り替わる講座が多い中、短縮された夏休み期間中という受講者が参加しやすい日程で実施することができたのも、高評価につながったと考えられる。

現場教員の間で評判が口コミで広まっていることを受講者から耳にしているので、今後もニーズをしっかりと受け止め、次年度に活かしていきたい。